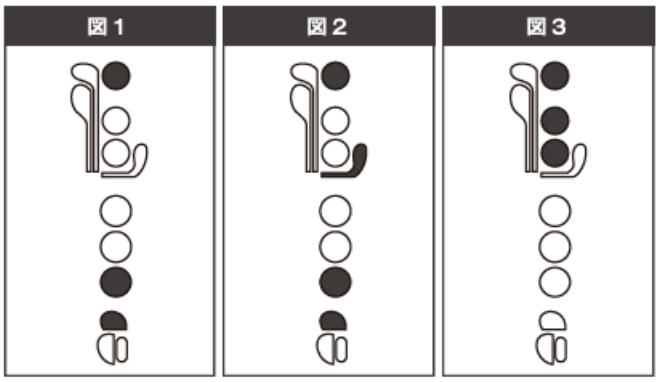
Ⅲ 行進曲「春」／福島 弘和

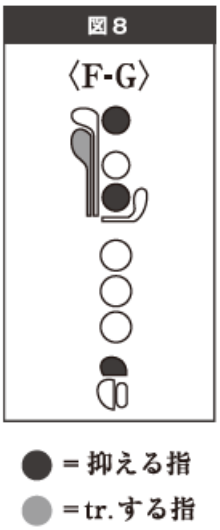
◆Piccolo

11 小節目の E♭は高くなりやすい音ですが、息が上に上がり過ぎないように注意してみてください。[B] と [C] は f の指示ですが高音域も使われていますので mp くらいで吹くとバランスが取りやすく軽い音に出来ます。76 小節目の C は不安定になりたくない音ですが不安定になりやすいですね。図 1 の運指にすると安定しやすいので試してみてください。低くなりやすくなりますので、その場合は図 2 の運指にしてみてください。自分の楽器と前からの流れでの吹き方とで一番良い運指を探してみましょう。[L] からは ff ですが頑張り過ぎない方がバランスが取れます。特に 155 小節目の G は目立つ音域ですので mf くらいで充分かもしれません。高くなる時は図 3 の運指にしましょう。



◆Flute

この曲はアクセントや stacc.、テヌートといったアーティキュレーションが何も書かれていませんが、マーチなので基本的に 8 分音符は stacc. で吹きましょう。フレーズの切れ目も一本調子にならずにちゃんと吹き分けましょう。(8 小節 2 拍目の表拍までと裏拍からのメロディの間や、36 小節 1 拍目までと 2 拍目からのメロディの間など) 34 小節目の 1 拍目表は長めテヌートで裏は少し短め軽めで吹きましょう。(35、42 小節目なども同じ形です) 49 小節目からの合いの手は、3 連符の 1 つ目の音を少しテヌートで吹き、後ろを decresc. で抜いて吹くようにしましょう。50、52 小節目の 3 連符は tr. の図 8 の運指で良いでしょう。73 小節目アウフタクトからは mf で柔らかく歌って、77 小節目アウフタクトからは f で力強くマルカートで吹き、ニュアンスの変化をみんなで理解し、共有しましょう。102 小節目や 154 小節目 2 拍目の裏で 1st の G がオクターブ上がるので、2nd と音程を確認し、ブレンドされた響きを見つけてください。113 小節目アウフタクトからの Fl. の E♭や 2nd の F♭は響きにくい音域です。息のスピードを上げすぎず、吹き過ぎず、丁寧に芯のある音を目指してアタックも丁寧に吹きましょう。



◆Oboe

この曲は付点のリズムやフレーズ感等、周りの皆と一緒に気を付けることは沢山ありますが Oboe パートの課題はスタミナ切れを起こさないことでしょう。特に 119 小節目以降は要注意です。バテないためにはリードの調整や正しいアンブシュア、お腹の支えは勿論ですが、必

Spring March / FUKUSHIMA, Hirokazu

要以上に吹き過ぎないことも重要です。残念ながらオーボエが大活躍 !! という曲ではありませんのでこの曲を演奏する場合は冷静になって周りとの調和を重視しましょう。特に [C] や [G] は調和力の聴かせ所です。[G] は音程を合わせるのが難しいかもしれません。五線から出た高い音は特に注意して、柔らかい音色を目指しましょう。必要以上に吹き過ぎないこと、と述べましたがシーンごとのテンションはしっかりと他のパートと共有し、音量の大小というよりは音色でニュアンスの変化を付けた方が効果的になるかと思います。

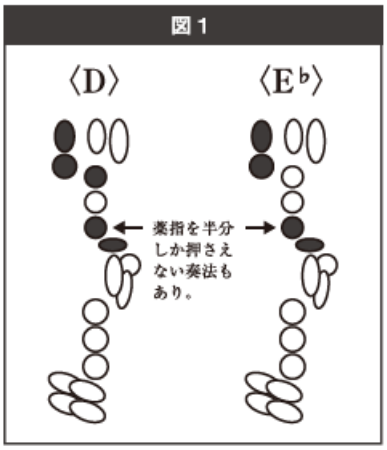
◆Bassoon

曲全体を通して、8 分音符、4 分音符をしっかり吹き分けましょう。付点 8 分音符は抜き過ぎたり止まった感じにならないように気を付けましょう。11 小節目に ff があるのでその前に大きくなり過ぎないように気を付けましょう。28、29 小節目の 4 分音符にあるテヌートはしっかり吹きますが、アクセントのようにならないように気を付けましょう。[C] から 2 拍目が大きくなりやすいので気を付けましょう。61 小節の 2 拍目からの f はしっかりと演奏しますが、[E] からは伴奏に戻るので注意しましょう。[G] からは p ですが音の移り変わり、フレーズ感などはしっかりと意識しましょう。117 小節目の mp はしっかり落としましょう。戻るようにして下さい。

◆E♭Clarinet

この曲は 1st Clarinet と同じ音が多いので、音色が混ざるようにしましょう。音域も高くないので、リズムの正確さやアーティキュレーションに注意して演奏しましょう。[A] は 4 小節ごとに音楽の流れの意識を変えてみると吹きやすいです。例えば最初 4 小節は縦ノリのきっちりとしたマーチ、21 小節目からの 4 小節は横の流れをイメージした、緩やかなマーチというように、雰囲気の違いを味わってみてはどうでしょうか。[C] は引っかけすぎないように注意しましょう。装飾音符みたいにならないように、正確に連符を入れてください。Trio からは吹きやすい音域に甘えて音量が大きくならないように気を付けてください。柔らかい音色で吹きましょう。119 小節からは、cresc. は付いていませんので、mp の緊張感を保ったまま演奏しましょう。[M] にある 16 分音符ははっきりと、明確に聞こえるように、はっきりとしたタンキングにしてください ! 高くなりやすい、上の D や E♭は図 1 の運指を参考にしてみてください。

図 1



◆B♭Clarinet

冒頭に出てくる付点 8 分音符+16 分音符の組み合わせのリズムは正確に。特に前の付点 8 分音符で息の流れが止まって短くなると、3 連符のように聞こえがちなので注意しましょう。[A] からのメロディは、少し大きなフレーズを作り、1 拍ごとに音楽が止まらないよう注意して演奏してください。[C] からの動きは後ろの 8 分音符が重たくならないようにしましょう。3 連符の頭に重さがかけられると軽快な演奏になると思います。54 小節目の 2 拍目にかけて同

Spring March / FUKUSHIMA, Hirokazu

じ E♭が続くスラーは 2 拍目に軽くタンギングを入れてあげると上手くいくでしょう。58 小節目からのパッセージは、その前から他のセクションとのカノンになっていますので、他のセクションと同じようにアーティキュレーションを揃えましょう。滑らかなイメージというよりは、はっきりと発音し少し marc. 気味に演奏してみた方が上手くいきそうです。[F] に現れる 16 分音符や、3 連符の細かいパッセージは急がず、しっかりと演奏しましょう。特に最後の 3 連符は、装飾音符のようにならないように注意して演奏してください。[G] からのメロディは、E♭の音の p で始まる、なかなか Clarinet にとってはシビアな始まりです。しかも直前まで ff で演奏したすぐ後ですので、繊細な息とアンブシュアのコントロールが求められると思いますので、そこに気を付けてしっかり練習をしてみてください。また、この Trio のメロディには前半あまり登場することの無かったスラーが多用されています。ですので、前半とは異なったサウンドの変化が必要です。ただ、このスラーも額面通りに演奏してしまうと、フレーズが切れ切れになってしまうので注意が必要です。スラーを意識しながら、かつ流れのあるメロディを作ってください。音色・音程感の統一された美しいセクションでのサウンドづくりに取り組んでください。119 小節目からの mp で始まるパッセージは、cresc. したいところですが、楽譜にはその指示がありません。多用されている臨時記号にヒントが隠されているように感じます。音量だけではない和声の変化を利用した演奏を研究してみてください。

◆E♭Alto Clarinet

たっぷりとしたテンポで演奏したい曲です。4 分音符、8 分音符、そして付点のついた音符の吹き方には工夫が必要となります。ベタッとならないように、しかし抜き過ぎないようにしましょう。71 小節目ですが、2 拍目頭の F♯の音は右手小指で押さえることになるので、1 拍目頭の F♯は右手小指で押さえ、次の D も右手小指、と右手小指で押さえる音が続きます。素早く持ち替えられるように練習しましょう。62 小節目は Alto Clarinet にしては高い音が出てきます。口を締めすぎず音程に注意して演奏しましょう。

◆B♭Bass Clarinet

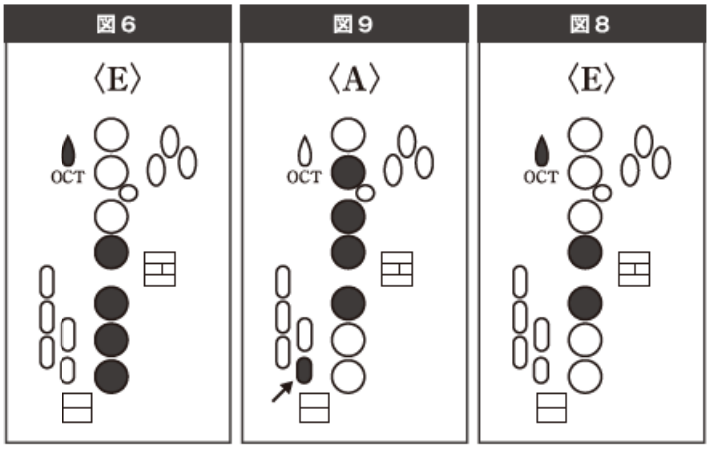
この曲は他のマーチに比べ、テンポがゆっくり目です。4 分音符も長さを十分に吹かなければいけませんが全体的にノッペリならないようにしましょう。ターと吹くのではなく「ターン」としっかり「ン」を入れて吹きましょう。[C] からはアクセントなどは書いていませんが、くっきり演奏しましょう。[G] からは p になるので今までよりは柔らかく、しかし遅れないように演奏しましょう。

◆E♭Alto Saxophone

この曲はたくさん出てくる付点のリズムを美しく響かせられる様に音型、響きを研究してみましょう。2nd パートはメロディのハモリで同じ音が続きますが、1st のメロディを一度吹いてみるなどして歌い方を理解し、メロディの形に添った音形に揃えると、メロディ・パートとして連携が取れるでしょう。1st の Trio 冒頭の E♭音は美しく響かせられる様に前の休符でしっかり準備をしておきましょう。32 小節 2 拍目や 77、78 小節、164、165 小節の 16 分音符は付

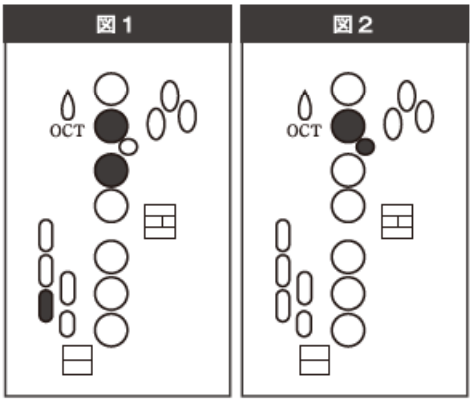
Spring March / FUKUSHIMA, Hirokazu

点や逆付点などにリズムを変えて、ゆっくりで指の癖を取る練習をし、舌と指をしっかり揃えていきましょう。40 小節 E 音は図 6 を使うと良いでしょう。2nd の 78 小節最後の A 音は図 9（矢印のキィを薬指で押さえます。）を使うとスムーズです。この運指は慣れると便利ですので、是非ゆっくりから動かせるように練習してみてください。106 小節の E 音は図 8 の替え指を使うと音の繋がりが良くなります。



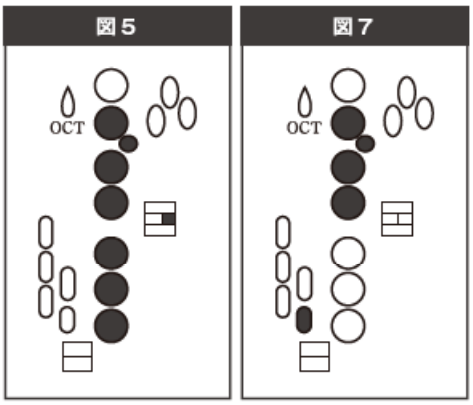
◆B♭Tenor Saxophone

[A] からは主旋律のハモリになります。同じ音が続いている 8 分音符は主旋律に合わせて頭の音にほんの少しテヌートを付けて演奏してみると主旋律と分離して聴こえることはなくなります。[F] からの旋律は音程がぶら下がって聞こえてしまいがちの音域ですので、しっかりと頭の中で音をイメージして歌いながら吹くと音が安定して聞こえてきます。79 小節目の 2 拍目裏の G♯は図 1 の Ta キィを使うとスムーズに繋がります。[G] からの 4 分音符は楽譜上にテヌートは書いていませんがテヌート気味に演奏しています。そして、ただ伴奏するだけではなく主旋律に合わせてフレーズも作ると素敵な演奏になると思います。142 小節目の A♭は短調の第三音になるので音程は少し高めに取ります。なので運指は図 2 の bis キィを使う運指にすると音程が取りやすくなります。159 小節目も同じように A♭の音は図 2 の運指にします。



◆E♭Baritone Saxophone

3、4 小節目、7、8 小節目 F の音程が低くなる時は図 5 の運指を使いますが、LowC♯キィを少し押して（半分も押さない）音程の補正をします。[A] や [B] の B♭の音程が低い場合は図7の運指を使います。117 小節目からの B♭も図7の運指を使います。この曲は何処がフレーズの山なのか確かめ、山に向かってどのように進んで行くのか、山からどのように下って行くのかというフレーズ感を持って演奏する事が大切です。旋律に合わせて 4 小節、またはは 8 小節毎に楽譜に斜線などの印を付けておくとより分かり易いです。



Spring March / FUKUSHIMA, Hirokazu

◆B♭Trumpet

曲全体としての注意点は、付点のリズムの演奏方法です。音符の間に休符が入ったようにならないこと、リズムが甘くならないことを心がけて練習しましょう。冒頭はファンファーレであり、また旋律でもあります。どちらの要素も満たすような演奏を研究してみてください。16 分音符の連続する部分はエアが止まらないようにのびのびと演奏しましょう。3rd は 1st や 2nd と音型が異なる部分がありますが、こういうところはホルンと連携をとるのも大事です。[A] からのメロディは他のパートと力を合わせてひとつの大きな音楽の流れを作りましょう。休符で流れが切れてしまわないように注意が必要です。[D] と [F] の 1st のメロディはスラーの切れ目にしっかりタンギングしましょう。79 小節目の 3 連符は音符の1つずつの音程と音色にこだわりをもって練習して、鮮やかに演奏しましょう。114 小節目は 2nd の動きを見せてください。[H] から同じメロディが何度も出てきますが、[H] は mf、[K] は f、[L] は ff です。しかもスラーの付いている場所が微妙に違うのでそれぞれ違った音色、アーティキュレーションで演奏できるように研究してみましょう。2nd、3rd はユニゾンの部分は 1st の音量より大きくならないように注意が必要ですが、オクターブユニゾンの場合はしっかり吹いて支えてあげてください。

◆F Horn

ゆったりとしたテンポの行進曲です。一つ一つの音の長さをきちんと守って演奏しましょう。4 分音符の長さはきちんと保つように演奏しながらも、決してテヌートが付く演奏にはならないよう注意してみて下さい。また、18 小節 1 拍目裏の 8 分音符、20 小節 2 拍目の 8 分音符等全員での休符の前や、リズムをはっきり出さなければならない箇所の音の長さはメリハリのある音の長さを心がけましょう。[H] からの対旋律ではスラーの位置を確認し、アーティキュレーションを守りフレーズが短くならないよう注意しながら演奏しましょう。147 小節目のグリッサンドは f から始まりますが後ろの cresc. を活かせるように工夫してみましょう。またグリッサンドでは最初と最後の音だけでなく、しっかりと中身を見せられるよう息を流して演奏しましょう。

◆Trombone

この曲は全体的に、ひとつひとつの音に芯を作り、響きをまとめるつもりで発音していきます。また、1st、2nd、3rd それぞれで時々ユニゾンになりますので、その際は響きをお互い潰し合わないようスッキリと抜けていく音を、速く細い息を少し奥まで通すようにして作りましょう。冒頭 11 小節目、3rd がバンド全体の核を作るつもりで C の音を堂々と鳴らしましょう。肺の深いところから瞬間的に息をグッと持ち上げてくるようにしてアタックを作ります。28、29 小節目にあるテヌートは、その 4 分音符の重さが増えて深いところまで沈みこんだような伸ばし方をすれば自然なテヌートになります。37 小節目からの裏打ちと 8 小節目の 4 分音符の響かせ方は明確な違いが出せると良いです。51 小節目の 2 拍目はオクターブユニゾン、55 小節目の 2 拍目はハーモニーになりますので、ハーモニーの時の方が個人個人の音の厚みが増えるようにたっぷり吹いてください。あとは力みすぎず、楽に吹きましょう。89 小節目から [H]

Spring March / FUKUSHIMA, Hirokazu

にかけても mp というよりは、温かくスピードの速くない息で軽やかに弾むような音を作り、フレーズを作ってください。121 小節目からの 4 小節間は、2nd の半音上昇を基準にして 1 小節毎にテンションを上げていきましょう。[K] からも力を抜いて軽快な音作りを目指して下さい。138 小節目の D の音は 4 ポジション、139 小節目の D の音は 1 ポジションで取ることをお勧めします。

◆Euphonium

この曲はアクセントやニュアンスの指定がほとんどないので何も書いていない音符をどのように演奏するかをしっかりと意識して練習しましょう。基本はマルカートを意識して演奏してみてください。全体を通して付点 8 分音符は息のスピードを利用して出来るだけ音の長さに気をつけて演奏しましょう。長くなりすぎて「タァータタ」となったり、「タッタタ」と短くなりすぎないように気をつけてください。またメロディと同じ動きでハーモニーを演奏している箇所 (17〜20 小節目) は音量が大きくなりすぎず、バランスに気をつけてください。34、35 小節目のスラーの後ろの音は少し短めに演奏するとリズムがみえると思います。28、29、44、45 小節目のテヌートは次の音に向かって演奏してください。その際に次の 8 分音符は止めすぎて流れが止まらないように気をつけましょう。[C] からのメロディはできるだけクリアな発音と速い息のスピードで軽やかに演奏しましょう。その際、51、55、67、71 小節目の頭の 8 分音符にしっかりとウェイトがかかるように演奏してみてください。[G] から 88 小節目までは sostenuto で演奏しましょう。89 小節目からはマルカートで演奏してみてください。105 小節目からのスラーは前向きに息を流してあげましょう。同じ音は軽く舌をついてあげてください。117 小節目の mp は音量は小さくなっても発音はクリアにテンポが遅くならないように気をつけてください。161、162 小節目はこの曲で唯一アクセントがついていますので 8 分音符に音ともに同じ強さで響きを大事にして演奏してください。この曲では発音をクリアに吹く事と 4 分音符や 8 分音符の音の長さを他のパートとしっかり揃えていけるように練習していきましょう。

◆Tuba

この曲は、テンポ設定が難しいですね。それが格好いいのですが。低音が走ってしまったり、だんだん遅くなってしまったりと不安定だと周りは演奏できません。メロディをしっかりイメージしながら、メトロノームに合わせたり、メトロノームを裏打ちにして演奏してみたりと、色々工夫して練習してみましょう。[A] や [B] などの、メロディと同じリズムの伴奏は特に軽やかに、メロディがどう演奏しているのかをしっかり観察して演奏してください。[C] の Tb. との掛け合いのところは、全ての音をただ大きく演奏してはいけません。まず、49、50、53 小節目は 1 拍目を中心にし、4 分音符はテヌートがついたようにならず、軽く演奏します。そして、4 小節ごとのフレーズを大事にし、どこを1番格好良く見せたいかを考えて演奏します。52、56 小節目のフレーズの最後の音にアクセントがつかないように注意してください。[G] からの p や mp は、弱々しく、柔らかい音になってしまわないように注意が必要です。マーチ感とリズムをはっきり見せましょう。117 小節目から [K] まで続く B♭音はリズムがはっきり見えにくくなります。音と音との間に少し隙間をあけ、Timp. や B.D のようなイメージではっきり、しっかり

Spring March / FUKUSHIMA, Hirokazu

と演奏しましょう。隙間をあけるというのは音を短くするというのとは少し違います。そして、音量の指定はしっかり守り、131、132 小節目の cresc. をたっぷり効かせます。

◆String Bass

この曲は楽譜がとてもシンプルです。まずはメロディを自分で歌ってみてフレーズを何小節でとるのか、またどう表現したいのか、そしてそれに合うベースラインにするにはどうすればいいのか弾く前にぜひ考えてみてください。軽快なテンポの元気のいい音よりは、少しゆったりしていて堂々とした音が合うと思います。11 小節から 12 小節目はダウン・ダウン・アップで演奏します。[A] の 2 拍目はアップ・アップ、19 小節目の 2 拍目も同様です。4 分音符と 8 分音符の弾き分け、テヌートの有無の弾き分けを明確に。[C] は弓の配分に注意してください。それぞれの小節の頭の音は重さの欲しい音ですが、決して響きを止めるような硬く短い 8 分音符ではなく、豊かな響きで重さのあるを目指しましょう。[G] からはテンポを維持してきた裏打ちがなくなります。低音の動きが横に流れすぎるところからテンポが落ちて聴こえてしまうので、推進力が必要です。[I] からは左手のポジションの幅に気を付けながら、臨時記号の音程に気を付けて演奏しましょう。

◆Timpani

課題曲 1 のアドバイスにも書きましたが、ティンパニはハーモニー楽器です。この曲は比較的シンプルな和音で構成されていますので、是非スコアを読んでティンパニの音が和音の中でどのように使われているのかを調べてみて下さい。パート譜だけを見ると非常にシンプルな楽譜ですよね。ですが、音量の指定が同じであっても「目立たせるべき音」と「バンドの響きに馴染ませるべき音」があるかもしれません。休符のところで「しっかり音を止めるべきところ」と、「響きを残した方がいいところ」があるかもしれません。これらを判断するためにスコアをよく読みましょう。また、スコアだけで判断できない場合や、曲の解釈次第で変わってくるようなところは指揮者や他の奏者の方とよく相談をしましょう。この曲にはたくさん装飾音が出てきますが、ティンパニの場合スネアで装飾音を演奏する時に比べて間隔は広めでいいでしょう。117 小節目から B♭が続きます。これはドミナント・ペダルという手法なのですが、[K] の E♭で解放されるまで低音楽器と共にエネルギーを溜めるイメージを持つと良いかもしれません。ティンパニに様々な表現を求めている曲です。時間をかけてじっくり取り組めばレベルアップに繋がると思います。頑張ってください！

◆Percussion 1（Snare Drum）

マーチの Snare Drum の基本は課題曲 2 に書いています。この曲のテンポは 108 ～ 112 と幅がありますが、重くなりやすい傾向にあります。メトロノームを使って正確にテンポキープできるよう練習しましょう。8 分音符の裏打ちは、打面近くから打って撥ね上げるアップ・ビート奏法を使うと軽やかな印象になります。様々なリズムが使われていますが、特に付点 8 分音符と 16 分音符のタッカのリズムは 4 つの 16 分音符の 1 つ目と 4 つ目であることを忘れず正確なリズムを叩きましょう。この曲の Snare Drum はリズムを共有する楽器が次々と変わり

Spring March / FUKUSHIMA, Hirokazu

ます。それぞれの楽器のニュアンスを捉えきちんと合わせることはもちろん、音量や叩くスピードを変えて工夫しましょう。

◆Percussion 2（Bass Drum）

今回チューニングは、よりリッチに響く音色を作るために打面側よりも裏面の方を少しだけ高くしています。3、7、11 小節目は祝砲をイメージしてミュートせずに伸びやかな音色で演奏しましょう。8 分音符と 4 分音符は音の長さというよりも軽さと重さ、硬さと柔らかさなど、音色でニュアンスの差をつけると効果的です。

◆Percussion 3（Crash Cymbals）

11 小節目は 8 分休符に気をつけて、ff をしっかり出しましょう。但し、破壊的ではなく華やかな音色になるよう研究してみてください。[J] からの 8 小節間は、最初の 4 小節間に cresc. の表記はありませんが、mp から少し前向きにゆっくり cresc. して、[K] まで持っていきましょう。8 分音符と 4 分音符の違いは、音は止める事よりも音色でニュアンスの違いを使い分けられると良いでしょう。

◆Percussion 4（Triangle,Suspended Cymbal,Glockenspiel）

Triangle は太めのビーターを使用し、明るめの音色をイメージして演奏しましょう。Suspended Cymbal のマレットは、少し重めで毛糸の物がおすすめです。コトコトと言う打音が入らないように、出だしはあまり早く手を動かさない事がコツとなります。いつも同じ cresc. にならず、どの音量を頂点にするかを良く考えて演奏をしましょう。Glockenspiel のマレットはミディアムハード位の固さで粒がクリアに演奏できる物を選択しましょう。符点のリズムに注意をして演奏し、[C] からの連符は、拍頭に重さを置いて演奏をしましょう。

Spring March / FUKUSHIMA, Hirokazu